

昭島市教育委員会 殿

学校名 昭島市立玉川小学校
校長 小川 広樹 公印

令和6年度 特別支援教室の教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき、特別支援教室による指導を下記のとおりお届けいたします。

記

1 特別支援教室の教育目標

(1) 自立活動の目標

児童一人一人の実態や能力、障害に応じた適切な教育を行い、学校や社会において情緒の安定した生活を送ることができるようにすることで、社会参加の素地を養う。

(2) 各教科の内容を取り扱いながら行う自立活動の目標

自分の気持ちを人に伝えることのできる児童、友達と一緒に活動できる児童、様々な活動に喜んで参加できる児童を育てる。

2 教育目標を達成するための基本方針

- (1) 指導のねらいを明確にした自立活動を中心とした指導を進め、情緒の安定を高め、社会性を育てる。
- (2) より良い人間関係の構築、意思の伝達能力の向上を図る。
- (3) 児童の実態を適切に把握し、在籍学級及び保護者と協議して作成した学校生活支援シート及び連携型個別指導計画を基に、合理的配慮に努め、障害のある児童のニーズに応じた指導を徹底する。
- (4) 個別指導と個別的配慮をした小集団指導を組み合わせ、在籍学級での適応を図る。
- (5) 在籍学級、保護者との連携を密にし、協力して指導・支援の充実を図る。
- (6) 特別支援教室専門員を中心に在籍学級と特別支援教室が連携して指導に当たれるよう、全校体制で取り組む。
- (7) 1年間で目標を達成し、退級することを標準とする。継続については慎重に検討する。

3 指導の重点

- (1) 特別支援教室内における全ての指導や活動を通して、言葉、動作、表情などのコミュニケーション能力を伸ばしながら、より良い人間関係の構築や意思の伝達能力の向上を図る。
- (2) 学習障害のある児童に学習への取り組み方を指導し、在籍学級の授業に参加できるようにする。
- (3) 基礎的・基本的な運動を継続的に行い、運動能力や感覚機能の向上を図る。
- (4) 規則正しい生活習慣を身に付けさせ、心身ともに健康で安全な生活が送れるようにする。
- (5) 集団行動のルールを理解と規律尊重の意識を育み、周囲の状況を把握しながら言動のコントロールができるようにする。
- (6) 在籍学級・保護者と連携し、障害のある児童のニーズに応じた適切な進路指導を行う。

4 その他の配慮事項

- (1) 学年や知的理解力、人間関係を考慮して指導グループや担当者を決める。
- (2) 複数担任によるきめ細やかな指導の良さを生かし、指導の充実のために事例研究や担任研修会等を計画的に実施する。
- (3) 在籍学級における児童の行動を観察し、児童に対する個別指導や学習支援の充実を図る。
- (4) 連絡帳、連携型個別指導計画、保護者会、保護者面談、在籍学級担任面談、在籍学級参観等を通じて家庭や在籍学級との連携を深める。
- (5) 専門家を招聘し、指導・助言を仰ぐことにより、より充実した指導を目指す。また、臨床心理士及び専門機関との連携を深め、児童理解を図る。